

# そよ風

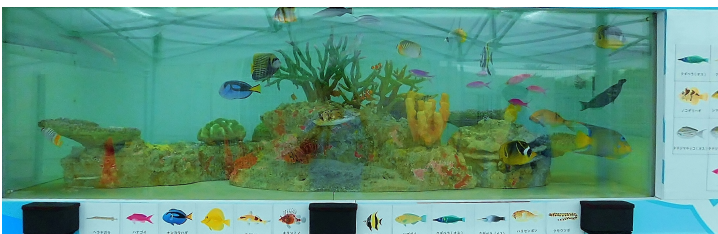
- 1～2 東大和フェスタ
- 3 生け花展
- 4 日本重症心身障害福祉協会  
全国施設協議会  
全国重症心身障害児(者)を守る会  
創立55周年記念大会
- 5 福祉サービス第三者評価報告
- 6 看護部院内研修計画
- 7 マイワールド
- 8 看護の日 人事異動

## 東大和フェスタ 2019年6月29日(土)

第2病棟 主査 岸本 泰之

今年のフェスタは如何でしたでしょうか。梅雨空の時季フェスタ当日は時折しめやかな雨が滴る、いつ泣き出してもおかしくない、そんな空模様となりました。予想通りとはいえ、どうしても晴れる望みは捨てきれず、空を眺めていました。これ以上降らないで…と願いを込めつつ、玄関前にたくさんのテントを並べ、晴天時同様に開催することとなりました。

今年のフェスタは午前中を第1部とし葛西臨海水族園から海の生き物達にお越しいただきました。両側に大きな水槽を2つ備えた全長8mのトラック「うみくる号」と、ふれあいコーナーの海の生き物たちを乗せた「いそくる号」がやってきてくれました。玄関前のテントにぐるりと囲われた「うみくる号」の熱帯水槽には、鮮やかなサンゴ礁の周りを赤や黄色、青やオレンジの色彩豊かなお魚達がゆったりひらひらと泳いでいます。そしてもうひとつの水槽にはネコザメやイセエビ、アジにタイなど東京湾の美味しそうなお魚達が泳いでいます。約30種類のお魚達が集まってくれました。お一人おひとりゆっくりと観賞していただきましたので、水槽の周りには長い列ができました。ふれあいコーナーでは、カニやナマコ、ウニ、ヒトデ、ヤドカリなどを手のひらにのせたり、指先でざらざら、チクチク、ムニユムニユを感じていただきました。興味津々な眼差しや、手を引っ込めるような仕草、眉間にしわを寄せたりご利用者の皆様には様々な表情を見せていただきました。磯の香りを近くで感じる素敵な時



間となりました。

午後の第2部ではご家族の皆様にも参加いただきました。そして、ボランティアさんによるパフォーマンスを披露していただきました。音楽や大道芸、心地好い香りとおマッサージを提供していただいたボランティアさんは、全部で5つの団体です。第1部大活躍の葛西臨海水族園の皆様にもふれあいの生き物たちと一緒に参加していただきました。仮設棟にはご利用者の皆様が集まれる空間を用意できないため、ボランティアさんに病棟と通所を回っていただきました。ボランティアさんごとに1か所の公演時間は25分間、移動時間を5分間とし、続けざまに3か



所を回っていただきました。ご利用者の皆様のもとに代わるがわるボランティアさんが登場し、次はどんな方が何を披露してくれるのかと期待いっぱいの楽しいひと時となりました。ほんのちょっとだけ紹介させていただくと、「ヘルマンハーブ」(三木あき子様他の皆様)はとても柔らかい音色に心が引き込まれゆったりと、「ギターと歌」(水野豪様)は見て聞いて参加して楽しい、笑顔いっぱいの時間を、「アルトサクソ」(皆川陽子様)は大人の響きのおしゃれな時間

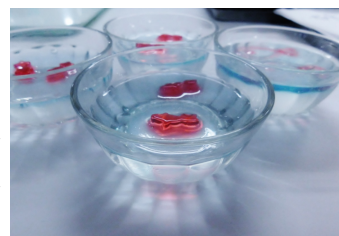


を演出していただきました。「BODY SHOP」(ルミネ立川店様)のマッサージはアロマの香りに包まれ、お肌はしっとりつるつる、剥き卵のような質感に仕上がりました。「ピエロの大道芸」(クラウンな様)は、風船で大きな「世界でひとつだけの花」をご利用者の皆様と一緒に、傍に寄り添っていただきながら作ってくれました。いっぱい笑顔と心温まる時間でもありました。葛西臨海水族園(移動水族館の皆様)には海の生き物たちの魅力を一人ひとりにとっても丁寧に伝えていただきました。

今年のフェスタはボランティアさんの大きな力をお借りして開催することができました。たくさんの人を笑顔でいっぱいになりたい、心に響くものをたくさん伝えたい、素敵な音色を届けたい、音楽を通してひとつになりたい、そんなボランティアさんの思いが伝わってきました。そして、そんな思いがフェスタとひとつになり素敵な一日となりました。人との繋がりがとても温かいと実感し感謝と喜びを覚えました。そして、そんな方々がご利用者の皆様の近くにたくさんいると思うと嬉しくもなりました。



最後になりますが、ご利用者の皆様をはじめご家族の皆様には、仮設棟での開催となり、行き届かないなかご理解とご協力をいただきましたこと、この場をお借りしお礼を申し上げます。そしてフェスタを通してご利用者の皆様の心を満たすときがほんの一瞬でもございましたら幸いです。



# 初夏の生け花展

リハビリテーション科 理学療法士 山崎 理恵

毎年恒例リハビリテーション科主催の生け花展、今年は2019年5月27日(月)に開催しました。本館ではエントランス正面に展示していましたが、今年は仮設棟ということで、2階と3階それぞれのエレベータ前に展示しました。みなさん、ご覧になられましたでしょうか?今年は、チームヤマトグループのメンバーを中心に、11名の利用者さんが参加されました。生け花のお花は人数分の花束になって届けられます。利用者のみなさんはまず、それぞれ好きな花と花器を選び、どれをメインにするか、葉っぱはどこにするかなど、職員と相談しながらバランスを考えて生けていきました。完成したら、お花と一緒に写真撮影!そして作品名を考えます。お花からイメージされる事柄や、ご本人の好きなことなどをタイトルにして展示しました。会場となった集団指導室は、色とりどりの花の甘い香りに包まれていました。利用者のみなさんも職員も、素敵な時間を過ごすことができました。



## 平成31年度 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会に参加して

第2病棟 看護師 古菅 美納

前日の雨は去り、初夏の日差しに迎えられた令和元年5月30日、公益社団法人日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会が水戸プラザホテルにて行われ、永年勤続表彰および認定証授与式に当センターから桑原看護部長と私が出席してきました。今年度、日本全国にある重症心身障害児者施設で10年以上勤務された方は645名、その内の6名がセンターの職員でした。この6名の代表として私は、日ごろの功績が称えられた表彰状を頂き、センターに就職してから10年も経ったことを実感しました。表彰式の挨拶に、「10年前法律が変化、障害者権利条約批准され障害者を取り巻く環境も変化、この流れを振り返り、鑑みて後輩指導へ」との話がありました。この10年間でどのようなようであったかを振り返ると、法・制度の変化に伴い障害福祉施策も大きく変化されている最中で、措置から契約によるサービスの利用、障害者の範囲の見直し、医療的ケア児への支援の整備などが行われています。しかし気がつけばこの10年、これらの中には目を向けられず、ただ前を見て進んできた10年でありました。今いる利用者さんへ、より質の高いケアを提供するにはどうしたらよいかを試行錯誤してきた毎日でしたが、思い返してみると呼吸器を含め医療ケアを必要とする方の短期利用も多く、通所事業や在宅支援に関する事柄を耳にすることも多くなっていました。様々な医療デバイスを持ちながら地域で暮らしている障害児者も多く、私たちが勤める施設が果たす役割も大きくなってきています。利用者の高齢化による身体状況の変化、日中活動の充実、地域支援など等、これまで培ってきた重症児看護を活かしてこれからも取り組んでいきたいと思い直した1日でした。

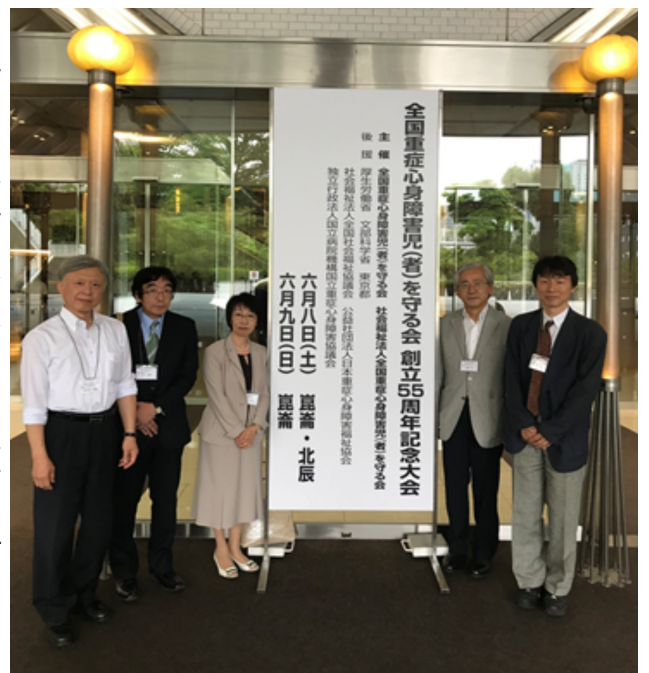
## 平成31年度 全国重症心身障害児(者)を守る会 創立55周年記念大会

生活支援科長 森 謙二

6月8日・9日の2日間、グランドプリンスホテル新高輪において守る会の全国大会が開催されました。当センターからは柳瀬院長、獅子野事務長、桑原看護部長、山川看護科長と森の5人で参加しました。

1日目の記念講演では「守る会の理念を確認する」というテーマで岡田喜篤先生が、守る会創成期のお話を交えてお話くださいました。また、シンポジウムでは「重症児の豊かな暮らしのために」のテーマで厚労省、文科省、施設、家族の立場から現状やそれぞれの取り組みについてのお話がありました。2日目には、家族の願いを取りまとめた要望書が採択され、1200名の参加者の熱気に包まれた大会は閉幕しました。

家族の想いが国を動かし、法が整備され、制度が作られ、守る会の55年にわたる活動の成果として現在の重症児への支援体系に繋がっていることをあらためて学ぶことができました。私たち職員も家族の想いを汲み取りながら利用者支援にますます努力を重ねていかなければならないと思いました。



## 平成30年度

# 福祉サービス第三者評価報告

1 評価機関名 一般社団法人 日本福祉サービス評価機構

2 評価結果の概要

(1) 医療型障害児入所施設(旧重症心身障害児施設)長期入所

①特に良いと思う点

- ・多職種の専門職が連携した療育体制により一人ひとりの利用者の状態に応じたQOLの維持向上に取り組んでいる。
- ・今後の療育における利用者の意思決定支援について、利用者・家族と療育関係者によるACPの取り組みが行われている。
- ・利用者の権利と尊厳を守る取り組みがさまざまな療育活動の場面や記録作成において多面的に行われている。

②さらなる改善が望まれる点

- ・療育活動や安心・安全の質の向上のために専門職人材の育成・定着とともに必要な職員数を確保するためのさらなる取り組みが望まれる。
- ・利用者の高齢化や状態の変化に対応した日中活動、デイルーム、プレイルーム等活動環境の変化に対応した療育体制への見直しが望まれる。
- ・長期入所の定員に限りがある中、短期入所の利用率向上を図る等、在宅の重症心身障害児者への支援機能を高める取り組みが望まれる。

③センターが特に力を入れている取り組み

- ・利用者の安全確保のために医療安全・感染予防等の委員会を設置して取り組んでいる。
- ・重症心身障害児の療育の変化に対応できる専門職人材の育成・教育を行っている。
- ・療育における日中活動の充実を図るため、療育環境の見直し・整備に取り組んでいる。

(2) 生活介護(主たる利用者が重症心身障害者)通所

①特に良いと思う点

- ・多職種の専門職が連携した療育体制により一人ひとりの利用者の状態に応じたQOLの維持向上に取り組んでいる。
- ・今後の療育における利用者の意思決定支援について、利用者・家族と療育関係者によるACPの取り組みが行われている。
- ・利用者の摂食機能に対応した食事提供とQOL向上のための食事支援への取り組みが行われている。

②さらなる改善が望まれる点

- ・療育活動や安心・安全の質の向上のために専門職人材の育成・定着とともに必要な職員数を確保するためのさらなる取り組みが望まれる。
- ・利用者の高齢化や状態の変化に対応した日中活動、デイルーム、プレイルーム等活動環境の変化に対応した療育体制への見直しが望まれる。
- ・利用者・家族の状況や希望に合わせて、より柔軟に対応できる通所体制を検討し、通所機能がさらに有効活用できる取り組みが望まれる。

③センターが特に力を入れている取り組み

- ・利用者の安全確保のために医療安全・感染予防等の委員会を設置して取り組んでいる。
- ・重症心身障害児の療育の変化に対応できる専門職人材の育成・教育を行っている。
- ・療育における日中活動の充実を図るため、療育環境の見直し・整備に取り組んでいる。
- ・医療ケアの多い利用者を受け入れ、多職種が連携してQOL向上を図る支援を行っている。

平成31年度

# 看護部院内研修計画

長期利用者の方は、毎年年齢を重ね、医療的ケアが少しずつ増えてきています。また、短期入所の方は、高度の医療的ケアを必要とすることが多くなってきています。

看護部では安全で質の高い看護・療育の提供ができる職員の育成をめざし、院内教育を企画しています。看護師、保育士、指導員がそれぞれの専門性を活かし、実践を通して成長ができるような内容になっています。

	名	研修目的	対象
基礎コース	新任オリエンテーション 基礎コースⅠ	①看護部職員として必要な知識・技術を学び、病棟での業務に活かす。 ②看護(療育)の基礎技術、知識、態度を習得するとともに、重症心身障害児者の特徴を理解し、安全な看護(療育)を提供する。 ③担当職員として助言を受けながら、看護(療育)計画に沿って実践する。 ④自己の看護(療育)観を明らかにする。	1年次悉皆
	基礎コースⅡ	①担当職員として助言を受けながら、利用者の看護(療育)の展開に責任を持つ。 ②根拠に基づいた看護(療育)を実践する。 ③自己の看護(療育)観を深める。	2年次悉皆
	基礎コースⅢ	①担当職員として自立し責任ある行動がとれる。 ②根拠に基づいた知識技術とともに、個別的看護(療育)の実践ができる。	3年次悉皆
一般コース	プリセプター	専門的知識を学び業務に活かす。	職歴3年目以降
	緩和ケア		
	看護・療育記録		
	在宅支援		
	倫理		
	てんかんの基礎知識		
	看護・療育研究		
	フィジカルアセスメント		
	看取りの看護		
家族支援			
専門コース	専門コースⅠ 摂食	専門的知識を深め、指導的役割を果たす。	中堅職員
	専門コースⅡ		
管理コース	係長研修	職責を理解して、必要な知識を習得する。	係長・主任
	主任研修		

臨床検査業務をしていて時折思い出す言葉があります。それは、かなり昔のことですが「君はアルブミン2.5g/dlの患者がどんな状態か患者の腕に触れたことがあるか」と問われたことです。当時、私は検体検査を担当していて異常値が出たので主治医に直接報告しました、その検査項目はアルブミン(2.5g/dl)で、報告した医師からは感謝と労いの言葉をいただきました。後日、その医師と話す機会がありその時に言われたのが冒頭の言葉です。当時の私は、精度の高い正確な検査結果を出すことに懸命で、検体とその数値ばかりに気を取られて、患者さんの状態はどうかと思うことが不足していたことに気付かされました。今も何かの折に思い出す言葉(教訓)の一つです。当センターは仮設棟に移転し、仮設ゆえの狭さからか利用者さんとの距離(物理的+心理的)が以前より近づいた気がします。廊下や待合スペース、トイレなどで利用者さんの元気な声と活発な行動や具合の悪そうな様子などが、以前より身近に多く接しています。検査結果の報告時には、前述の教訓とセンター内で身近に接する利用者さんの様子を思い出し、この患者さんはどんな状態だろうかと思うことに努めています。(長澤 准一)





思うこと

感じること

伝えたいこと

Vol.12



### 「親のエゴ」

我が家には4人の息子がいます。気付けば全員がサッカーをやっていて、平日、土日関係なく練習の送り迎え、試合の送迎に追われています。親として、純粋な気持ちで子供の応援をしているつもりですが、関わりが増えれば増えるほど子供に対する期待値や取り組み姿勢を値踏みしてしまう自分がいます。試合で不甲斐無い息子を見ると心の中で舌打ちしている自分がいます。だいたいそういう日は帰りの車の中で反省会ですが、息子は決まって「父ちゃんにできんのかよ!!」と怒ります。まあ考えてみればその通りで、サッカー経験など全くなく、ろくにスポーツに打ち込んだこともない、サッカーの知識ゼロで運動経験もない努力知らずの男に言われたくないという息子の意見は当然至極です。わが身を振り返れば、好きなスポーツを休まず続けている息子に何かを言える立場ではないと、後から反省しています。子供達のがんばりを認め、次の頑張りにつながるようなサポーターになりたいと思う今日この頃…。(濱野 正幸)



# 看護の日 2019年5月10日(金)

研修担当 看護師 吉田 等

現代の少子・高齢社会を支えていくためには「看護の心・助け合いの心」を一人ひとりが分かち合うことが必要です。こうした心が育つきっかけとなるよう1990年に厚生労働省により、フローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ「看護の日」が制定されました。

当センターでも地域に根ざした施設として、利用者やご家族、地域の方との交流を深め、重症心身障害児施設のセンターをもっと身近に感じていただきたいという思いで「看護の日」のイベントを開催しています。今年度で4回目の開催となる「看護の日」ですが、今年はいつもととは違いました。本館から仮設棟に移転したことにより、イベントを敷地内で開催する場所がない！！主任達で話し合いましたが場所がなかなか決まりませんでした。最終的には、“中で場所がないなら外だ。外でテントを張って開催しよう。雨？雨なんか降るわけがない。”というわけで、できる範囲での実施として外での開催を決定しました。開催当日は快晴！！天候にも恵まれ、無事に開催することができました。今年は今までの内容に骨密度を加え、センターにまったく通ったことがない方が、掲示板のポスターをみて参加してくれました。昨年度に比べて参加人数が17名と少なかったですが、イベントを心待ちにしてくれていた方がいたことを知り、開催して良かったと思えました。仮設棟では本館のようなイベントを行うことはできませんが、次年度も仮設棟ならではの「看護の日」を考えていきたいと思えます。多くの方からご協力を頂き本当にありがとうございました。



## 編集後記

センターのアスリートクラブに参加して以来、走る楽しさを知りジョギングが週末の日課となっています。ゆっくりと景色を見ながら走り、鳥や虫の声を聴き、またお花などの自然の香りから四季を感じることでリフレッシュできます！この号の編集期間にも、いつものジョギングコースが桜の後、“青葉、あじさい、ひまわり”と移り変わりました。

センターの正面玄関の看護学校沿いにもきれいなお花が元気に咲いて、仮設棟を華やかに彩ってくれています。花壇をきれいにしてくださっている方、ありがとうございます。皆さん見てみてくださいね♪(pino)

「そよ風」が発行される頃には、もう夏真盛りとなっていることでしょうか。私にとって「夏」のイメージは、青い空、青い海、水の流れる音です。テレビでは季節を先取りして早い時期からこれらの映像が流れ、それを見ると、「夏だ！」とウキウキした気分になります。自然しかない田舎で、宿題もせずただただ駆けずり回った夏、まぶしい太陽光の下、露出オーバーのような映像が蘇ります。この幼少期の刷り込みが、ウキウキした気分に繋がってるんだと思うこの頃です。(K.K)



東大和療育センターホームページ

東大和療育センター

検索

## そよ風 第97号

編集 院内報そよ風編集委員会  
発行日 令和元年7月15日  
発行 東京都立東大和療育センター  
東京都東大和市桜が丘3-44-10  
Tel 042-567-0222